

二条城周辺エリア

～二条城・二条陣屋・神泉苑～

視点場（境内）

特に着目する通り

視点場（参道等）

（白線）主な通り

エリア概要

- 二条城地域は、世界遺産として登録された二条城及びその周辺から構成される。二条城の南には、平安京の禁苑であった神泉苑や近世の陣屋遺構である二条陣屋を残し、歴史的景観を彩っている。一方、堀川通を挟んで二条城の東には高層ホテルが立地し、西側には所司代屋敷の跡地に学校等の公共施設が立ち、新旧共存した変化ある景観を形成している。

- 二条城周辺においては、京町家から構成される歴史的な町並みを基調とし、二条城に向かう街路からは、二条城の大きな樹木や石垣又は櫓等を垣間見ることができる開放的で明るい景観が特長である。また、堀川沿いには、手描き友禅の工房を中心とした職住共存の京町家を中心とした町並みが残されており、堀川通の沿道景観と融合して良好な景観を形成している。

二条城（世界遺産）

二条城は、慶長8年(1603)に徳川幕府により京都御所の守護と将軍上洛の時の宿泊所として造営された。二条城は敷地の外周部に樹木と塀があり、敷地内の建造物と一体的な眺めを見ることができる。



東大手門



清流園の眺め



周囲の視点場と堀川通

二条城は、広幅員の道路に囲まれている。これらの道路の景観は、二条城の豊かな樹木や堀川沿い、公共施設(学校)敷地内の樹木などにより、潤いのあるまちなみとなっている。二条城は敷地の外周部には石垣、堀があり、堀と歩道の間には生垣がある。周辺の通りからは、塀や石垣、櫓等の構造物と豊かな緑を望むことができる。堀川通には友禅染の染色業者の同業者町が形成され⁷⁾、現在は、染色の商店や、京染会館が位置する。



堀川通から見る二条城

二条城東側

西洞院通では、西洞院川の水を利用した染屋が出現し、今でいう黒染が始まった。⁸⁾現在も、染物屋が点在している。油小路通は、京都では、もっとも多い十数の京屋敷が通りに沿って並んでおり、明治以降、この通りでは京屋敷の跡地を利用して、市内ではもっとも多く学校施設が立ち並んだという。⁹⁾現在も通り沿いに学校など大きな敷地の建物が多く見られる。



油小路通



西洞院通

神泉苑

平安京において、中央に大苑池を持つ神泉苑があり、天皇を中心とした皇族の遊宴の地となった。このように天皇の禁苑が大きな空間を占めていたところに、大内裏に隣接していた当エリアの特色があった。¹⁾現在も規模は縮小したが、当エリアの特徴を良く現すものである。



二条陣屋

近世以降、二条城の南側は城下と呼ばれ目付屋敷などが所在した。²⁾二条陣屋は二条城の城下であり、二条城や町奉行所で公事に関わる大名などが宿舎としたため陣屋と称する。³⁾



二条城西側・北西側

慶長年間以降には京都所司代下屋敷や⁴⁾西日本支配のうえで重要な役割を果たした役所が密集し、またこれらの役所に勤務する役人たちの住宅も併設された。⁵⁾現在、それらの跡地には、府立朱雀高校などの学校施設や二条児童公園など、公共施設ができ、敷地内の樹木などにより、潤いのあるまちなみとなっている。



美福通

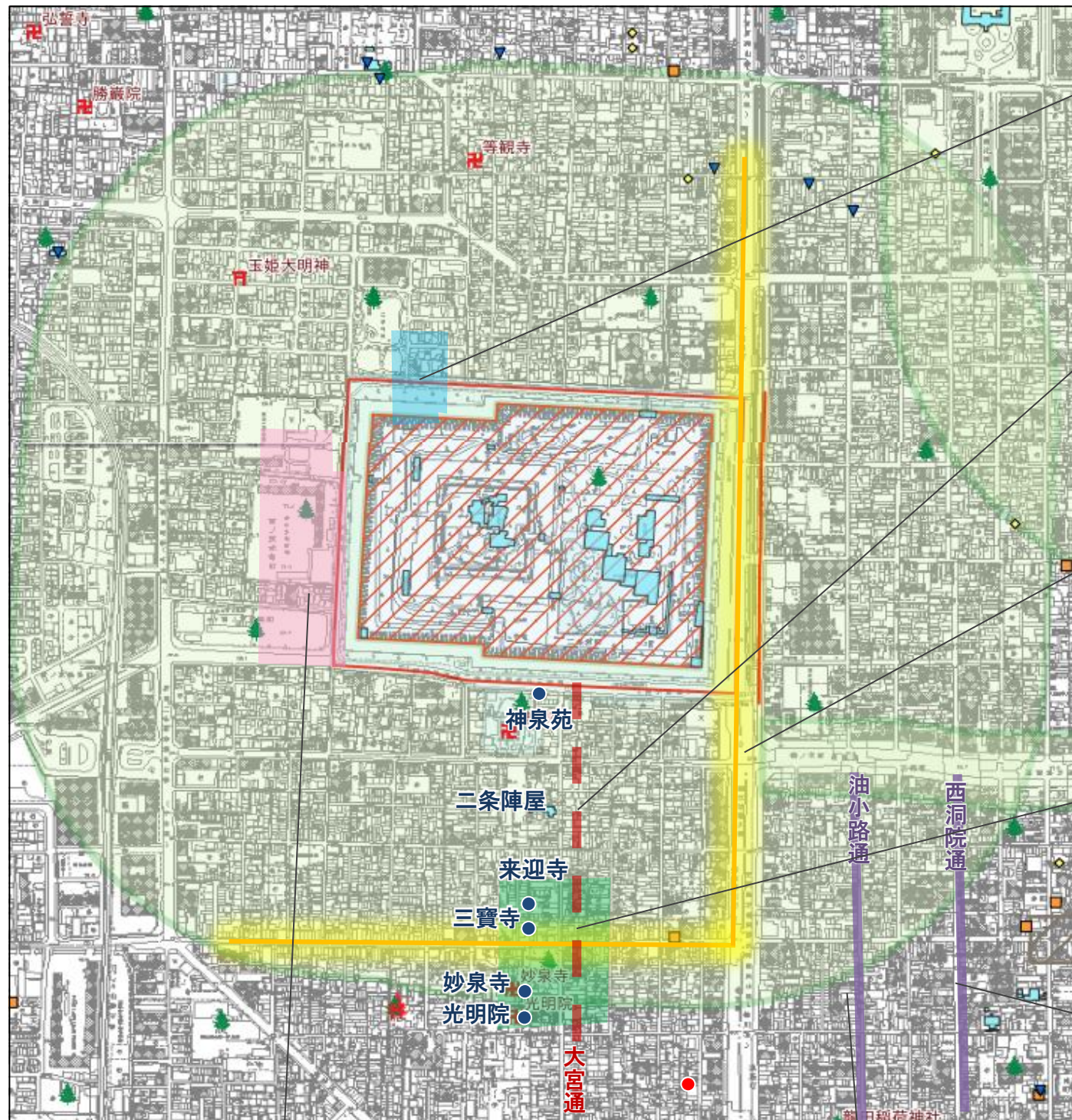


竹屋町通

三条通・大宮通付近の寺社の集積

室町時代に、京都の市街地の発展はほぼ大宮通以東に固まってきており、おのずと当エリアは市街の最西端という場所に位置することになった。よって、この辺りには寺院に適する広い敷地が確保、寺院が集積しているという。⁶⁾現在も、寺院が建ち並び和風塀が連続している。





※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

二条城西部

平安京の当エリアは、有力貴族の経営する学館が林立していた。17世紀中頃には、二条城の北部に所司代、西部および南部には京都および西日本支配のうえで重要な役割を果たした役所が密集し、またこれらの役所に勤務する役人たちの住宅も併設された。¹⁶⁾ 現在、それらの跡地には、府立朱雀高校などの学校施設が多く見られる。



美福通

油小路通

京都では、もっとも多い十数藩の京屋敷が油小路通に沿って並んでおり、明治以降、この通りでは、京屋敷の跡地を利用して、京都市内ではもっとも多く学校施設が立ち並んだという。¹⁷⁾ 現在も通り沿いに学校など大きな敷地の建物が多く見られる。



油小路通

二条城北西部

平安京にあって、当エリアは、大内裏の中心部に位置し、天皇の居所である内裏をはじめ、内裏に奉仕する諸役所があったが、その後、慶長年間以降には京都所司代下屋敷となった。¹⁰⁾ 現在は、その跡地に二条児童公園など、公共の空間が広がっている。



竹屋町通

二条城南側

近世以降、二条城の南側は城下と呼ばれ目付屋敷などが所在した。¹¹⁾ 二条城の城下にあり、米両替商や生薬商を営む御用町人で、住宅は町屋風だが、二条城や町奉行所で公事に関わる大名などが宿舎としたため陣屋と称する。寛文年間(1661~73)の建築と伝え、大正期に改造された箇所も少なくないが、二階建の客室部は天明8年(1788)の大火以降の再建容様をそのままのこす。¹²⁾



堀川通

平安京造営のゆかりから川筋に材木商人も集まった。近世以降は織物の町西陣を控えた環境と、豊富な伏流水に恵まれたこともあって、友禅染の染色業者の同業者町が形成された。¹³⁾ 現在は、染色の商店や、京染会館が位置する。

大宮通付近の寺社の建立と市街化

室町時代に、京都の市街地の発達はほぼ大宮通以東に固まってきており、おのずと当エリアは市街の最西端という場所に位置することになり、大宮通以西には豊かな田園風景が広がっていた。よって、この辺りには寺院に適する広い敷地が確保できたため、寺院が集積している。この地域における町家の発達は、こうした理由によって遅延したものと考えられる。¹⁴⁾



西洞院通

戦国期の16世紀には、紙漉・紙屋・染屋の集住地となった。西洞院川の水を利用した染屋の出現で、吉岡憲法はこの地で「憲法染」を開発した。今でいう黒染である。江戸時代になると、この通りの名産として声明を高めたが、同時に紙漉屋も大いに生産をあげていた。¹⁵⁾ 現在も、染物屋が点在している。



西洞院通

【凡例】

- 視点場(境内)
- 視点場(参道等)
- 近景デザイン保全区域
- 特に着目する通り
- 明治25年以前から存在する市街地

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財(建築物)
- 文化財(史跡・名称)
- 国土地理院社寺データ等

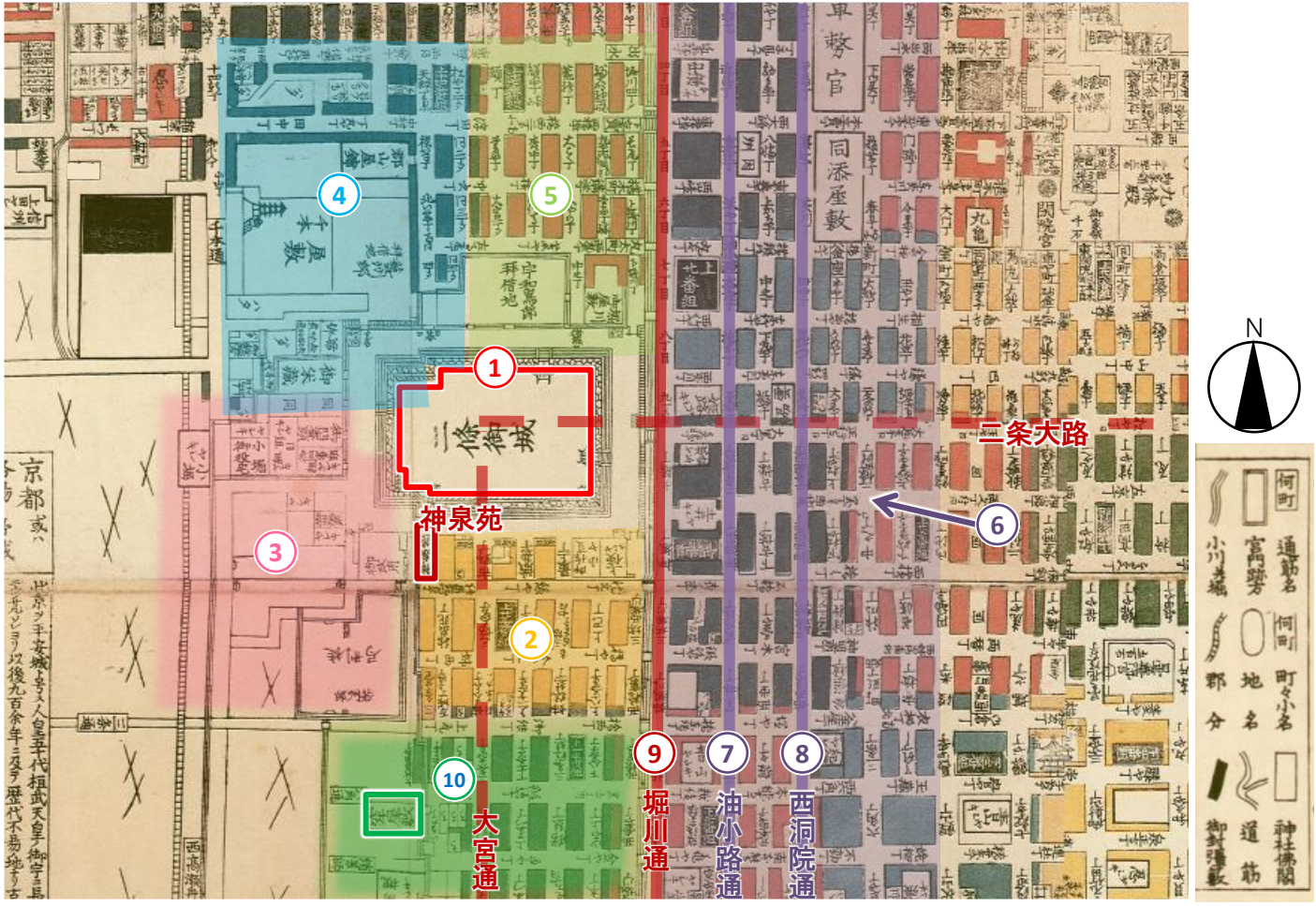
樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m2以上の社寺データ

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

① 二条城

平安京において、現在の二条城の中央部を東西に走る二条大路と、南北に走る大宮大路が交差していた。ゆえに当エリアは、この交点を中心に、西北地域に大内裏の一角、東北地域に方二町の規模を誇り歴代天皇の後院とされた冷泉院、西南地域には東西二町南北四町という広大な境域を占め中央に大苑池を持つ神泉苑があり、天皇の遊宴の地となった。このように天皇の禁苑と後院が大きな空間を占めていたところに、大内裏に隣接していた当エリアの特色があった。

しかし、中世に至っては、上・下京の分化現象によって、この地域はもはや京の中心部分ではなく、むしろ上・下両京のはざまとなり、多くは空地のまま放置されていた。

近世初頭、徳川家康が二条城を築いたのは、この地が両京を把握するために最も適した場所であったからに違いない。洛中における徳川家康の象徴である二条城が出現したことにより、当エリアは新たに京の都心として注目されることとなった。¹⁸⁾

② 二条城南側

近世以降、二条城の南側は城下と呼ばれ目付屋敷などが所在したものの、主に町家地域であった。堀川の舟運による材木の集散と関連して、樽・桶・戸障子・足下駄・版木細工などの同業者町を形成していた。¹⁹⁾

③ 二条城西部

当エリアは、有力貴族の経営する学館が林立していた。しかし大内裏の興廃、平安京の解体がすすむと、その影響をうけて当地域の繁栄も急速に凋落し、中世には荒地と化していたようである。

聚楽廻り・二条城廻りの名があり、当地区の北と南とが、聚落第・二条城に近接した地域であることを示しているが、江戸時代前期までは、ともに集落を形成せず街に住む農民が出作していたようである。

17世紀中頃には、二条城の北部に所司代、西部および南部には京都および西日本支配のうえで重要な役割を果たした役所が密集し、またこれらの役所に勤務する役人たちの住宅も併設された。このため、二条城周辺は京都ではめずらしい武家屋敷街へと変貌し、その分だけ耕地が減少した。²⁰⁾

④ 二条城北西部

当エリアは、大内裏の中心部に位置し、天皇の居所である内裏をはじめ、内裏に奉仕する諸役所があったが、これ以降大内裏跡は、畑地として開発され、近郊農村的な相貌をみせていた。その後、慶長年間以降には京都所司代下屋敷となった。²¹⁾

⑤ 二条城北東部

この地域にあたる大宮通以東は、中世にはすでに町化していた。その後、天正14年(1586)、聚落第の建設が始まると、市街化した地域の町屋が取り払われ、広大な武將の館が次々と建てられた。その後、二条城の建設に隣接して所司代屋敷が出現した。²²⁾

⑥ 二条城東部

北部は慶長8年(1603)、幕府重臣や代官の京屋敷が点在し、南部は平安時代から公家の邸宅などが賑わいを見せた。²³⁾

⑦ 油小路通

油小路通は、天正18年、豊臣秀吉がこの通りを中心に御土居の中心線にしたと考えられている。京都では、もっとも多い十数の京屋敷が油小路通に沿って並んでいた。²⁴⁾

⑧ 西洞院通

戦国期の16世紀には、紙漉・紙屋・染屋の集住地となった。西洞院川の水を利用した染屋の出現で、同時に紙漉屋も大いに生産していた。²⁵⁾

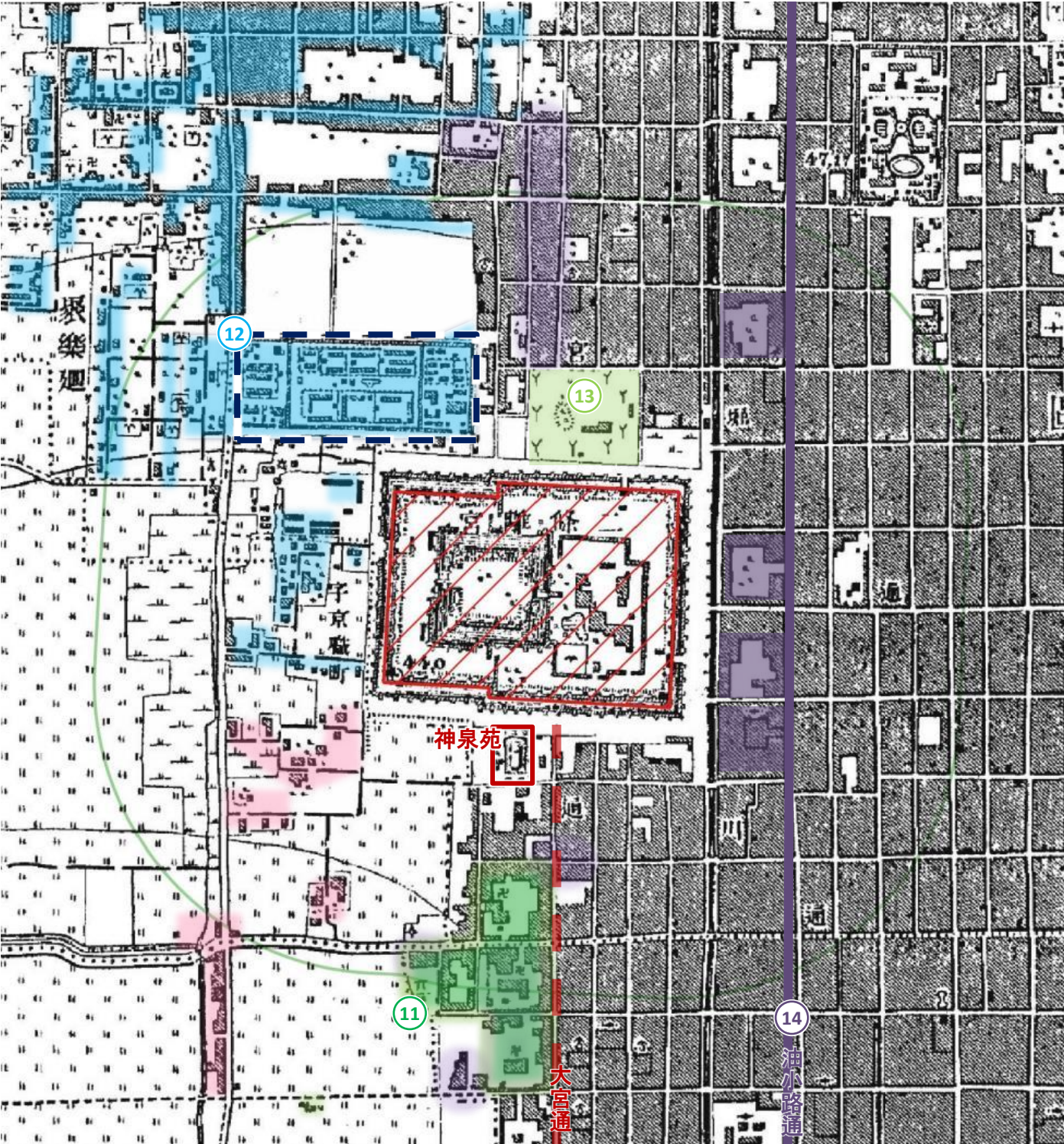
⑨ 堀川通

平安京造営のゆかりから川筋に材木商人も集まった。近世以降は織物の町西陣を控えた環境と、豊富な伏流水に恵まれたこともあって、友禅染の染色業者の同業者町が形成された。²⁶⁾

⑩ 大宮通付近の寺社の建立と市街化

室町時代に、京都の市街地の発達はほぼ大宮通以東に固まってきており、おのずと当エリアは市街の最西端という場所に位置することになり、大宮通以西には豊かな田園風景が広がっていた。よって、この辺りには寺院に適する広い敷地が確保できたため、寺院が集積しているという。この地域における町家の発達は、こうした理由によって遅延したものと考えられる。²⁷⁾

明治25年(1892年)



⑪ 二条城南部の寺社の建立と市街化

大宮通以西はあまり市街化しておらず、大宮三条付近に寺社が集積していることがわかる。

⑫ 二条城北西部

明治3年に、元所司代屋敷跡に京都刑務所が移転した。²⁸⁾ 千本通以西も市街化していることが分かる。

⑬ 二条城北東部

明治3年には京都所司代跡地に京都中学校が建てられたが、のちに移転し、跡地は養蚕場となった。²⁹⁾

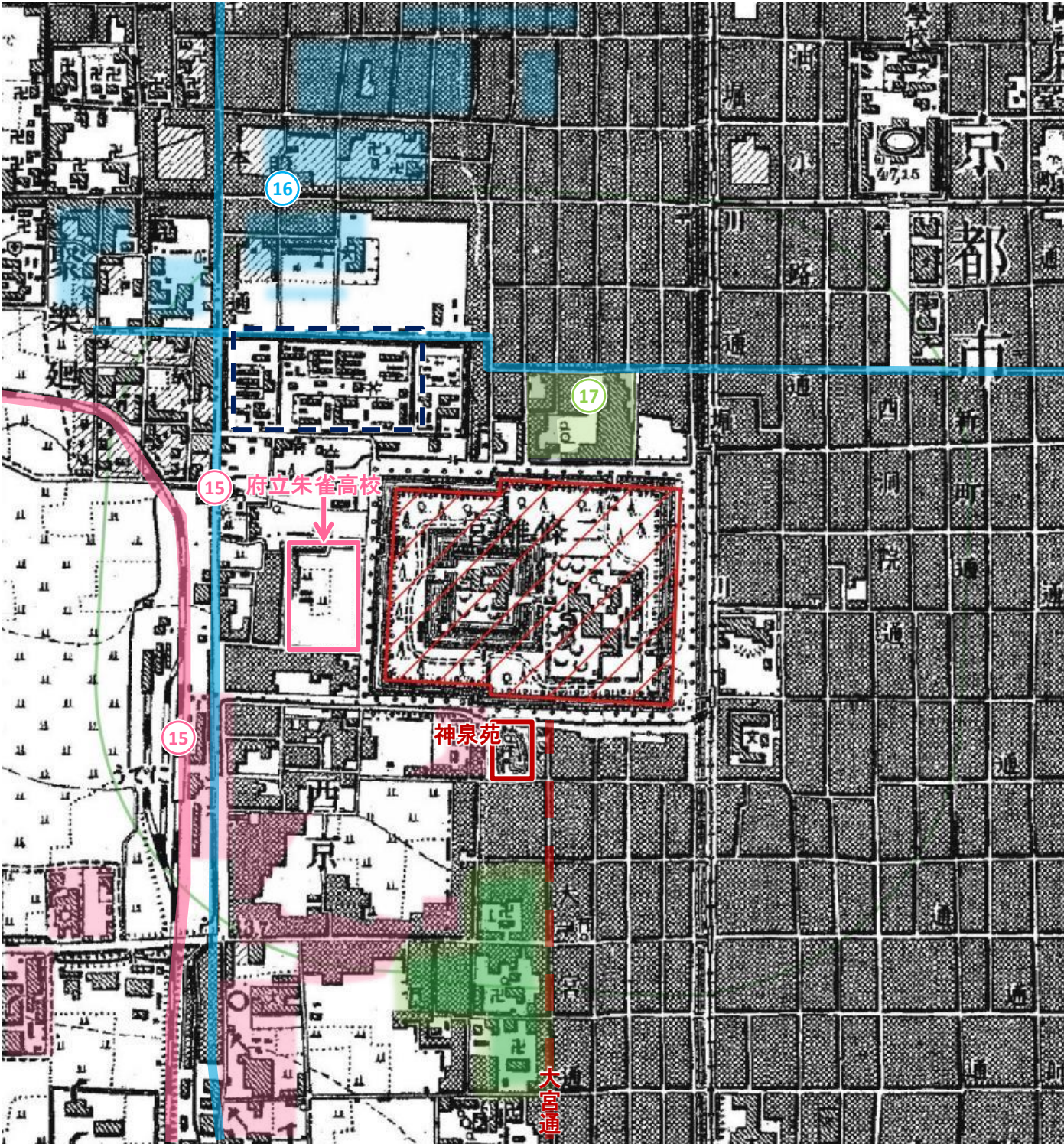
⑭ 油小路通

京都では、もっとも多い十数の京屋敷が油小路通に沿って並んでおり、明治以降、この通り京屋敷の跡地を利用して、京都市内ではもっとも多く学校施設が立ち並んだという。³⁰⁾

資料：仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

近景デザイン保全区域
視点場（境内）

大正元年(1912年)



⑮ 二条城西部

京都鉄道（現国鉄山陰線）の開通にともなう二条駅の開通により、京都の西の玄関口として一躍脚光をあびた。明治45年に現在の府立朱雀高校が移転してきた。³¹⁾ その影響があつてか、大宮通以西も三条通沿いを中心に市街化が進んできていることが分かる。

⑯ 二条城北西部

明治末年に、千本通と丸太町通に市電が敷設されたことで市街も活気をおびた。³²⁾

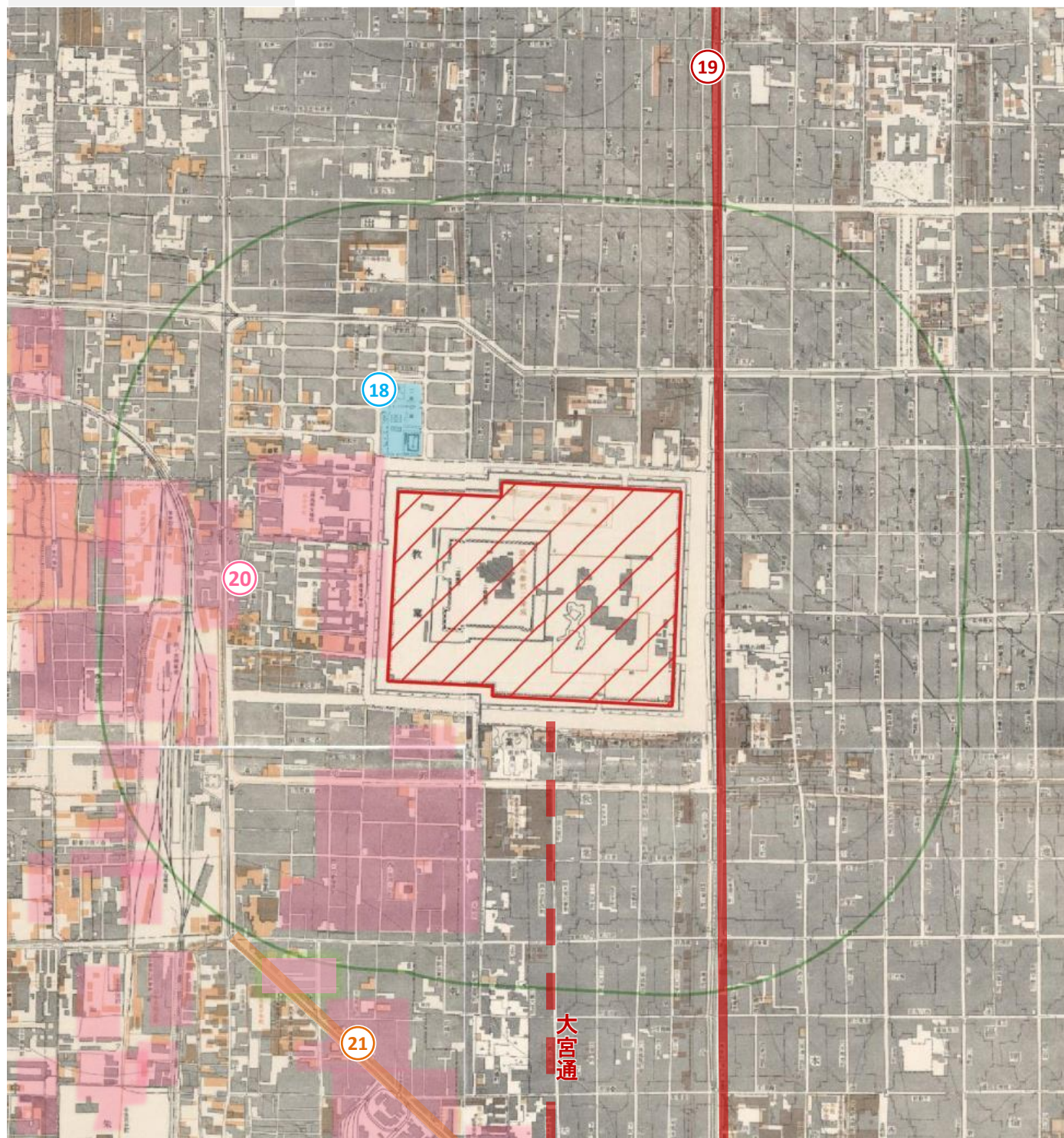
⑰ 二条城北東部

明治39年には、待賢小学校地となった。³³⁾

資料：正式地形図(大正元年)(国土地理院所蔵)
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

エリアの土地利用の変遷（3）

昭和28年(1953年)



⑱ 二条城北西部

昭和3年に「大礼記念京都大博覧会」が開催され、刑務所跡地が西会場に指定された。この会場跡地には、昭和9年には二条児童公園が建設されている。³⁴⁾

⑲ 堀川通

昭和20年、建物強制疎開が実施され、堀川通に面した町並みは撤去され、これによって今日の拡幅された堀川通が生まれた。³⁵⁾

⑳ 二条城西部

大宮通以西、千本通以西も市街化が進んでいる。

㉑ 後院通

新たに道ができており、周辺も宅地化している。

昭和10年都市計画図の内容
昭和28年の修正測図

資料：京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

二条城

二条城は、慶長8年（1603）に徳川幕府により京都御所の守護と将軍上洛の時の宿泊所として造営され、その後寛永3年（1626）に大規模な拡張・修復工事が行われている。現在の二之丸御殿は基本的にはこの時のもので、このほか本丸内には江戸後期に造営された旧桂宮御殿が移築されている

二之丸御殿は武家風書院造を代表する建築で、その主要部は遠侍及び車寄、式台、大広間、蘇鉄の間、黒書院、白書院の各殿舎からなり、これらが二之丸庭園の池に沿って雁行形に配されている。内部は、床の高さや天井の形態、屋敷飾り等によって各室に差異をつけながら配されており、また各室は部屋の目的に応じて障壁画が描かれ、欄間彫刻、飾り金具、釘隠し等が豪華に飾られるなどの意匠が凝らされている。

大広間から眺められるように造られた二之丸庭園は、この御殿の西にある池泉回遊式の庭園で、池の法面や護岸に多くの石組を配するとともに、池の中に3つの島、池の奥に三段の滝を設けており、その力強い意匠は豪壮な建築群とよく調和するものである。

二条城は桃山文化の精神を代表する文化資産であり、1788年の大火の難を逃れた二之丸御殿の6棟が国宝に、二之丸庭園が特別名勝に指定されているほか、旧桂宮御殿を移した本丸御殿や東大手門など計22棟の建造物が重要文化財に指定されている。

なお、この二条城は1868年に政府の所管となり、1871年には京都府所管とされた。次いで1884年に宮内省所管の離宮となり、1939年に京都市に賜下されたものである。³⁶⁾

文化財

国宝	二之丸御殿遠侍及び車寄	98	二之丸御殿式台	100	二之丸御殿大広間	101
	二之丸御殿蘇鉄の間	113	二之丸御殿黒書院(小広間)	114	二之丸御殿白書院(御座の間)	115
国指定重要文化財	本丸御殿玄関	93	本丸御殿御書院	94	本丸御殿御常御殿	95
	本丸御殿台所及び雁之間	96	二之丸御殿唐門	97	二之丸御殿築地	98
	櫓門	112	二之丸御殿台所	116	二之丸御殿御清所	117
	東大手門	118	北大手門	119	西門	120
	東南隅櫓	121	北方多門堀	122	西南隅櫓	123
	土蔵(米蔵)	124	土蔵(北)(米蔵)	125	土蔵(南)(米蔵)	126
	鳴子門	127	桃山門	128	北中仕切門	129
	南中仕切門	130				
国指定史跡	旧二条離宮(二条城)	278				
国指定特別名勝	二条城二之丸庭園	279				



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

二条城内の歴史的資産と守っていききたい眺め(2)

[国指定国宝・重要文化財]



本丸御殿玄関※



本丸御殿御書院※



本丸御殿御常御殿※



本丸御殿台所及び雁之間※



鳴子門※



桃山門※



北中仕切門※



南中仕切門※



二之丸御殿唐門※



二之丸御殿築地※



二之丸御殿遠待及び車寄※



二之丸御殿式台※

[国指定特別名勝]



二条城二之丸庭園※



二之丸御殿大広間※



檜門※



二之丸御殿蘇鉄の間※



二之丸御殿黒書院（小広間） ※

クロマツ 中京D17

二条城の堀に沿って植樹されているクロマツは、京都市の歴史的・文化的な施設である二条城の環境や景観を支える重要な役割を担っています。定期的な剪定や冬場のこも巻きなど、適切な維持・管理が行われています。

[区民の誇りの木]



二之丸御殿白書院（御座の間） ※



二之丸御殿台所※



二之丸御殿御清所※



東大手門※



北大手門※



西門※



東南隅櫓※



北方多門堀※



西南隅櫓※



土蔵（米蔵） ※

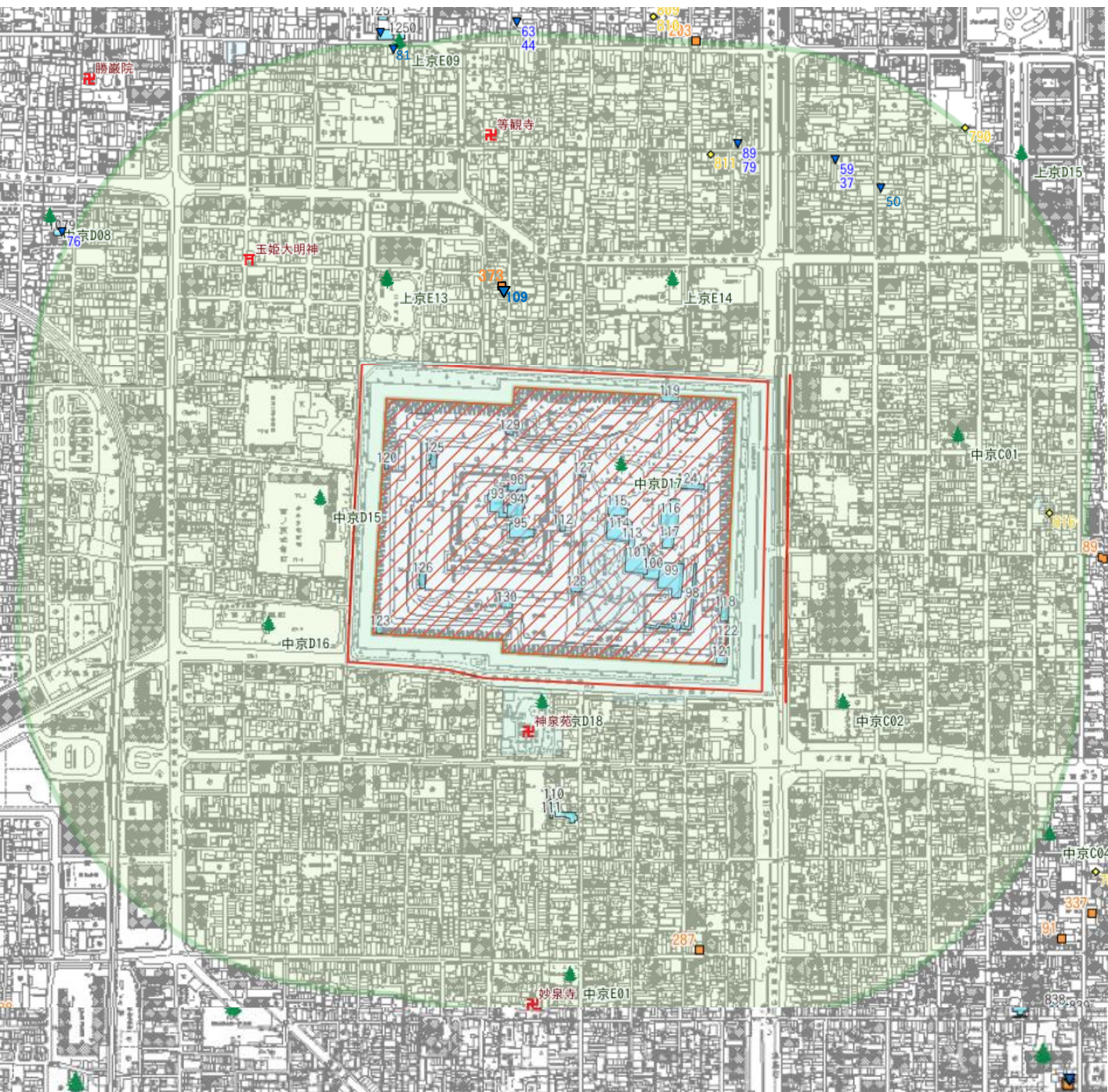


土蔵(北)(米蔵) ※



土蔵(南)(米蔵) ※

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

神泉苑

[国指定史跡]

中京区御池通神泉苑東入門前町にある東寺真言宗の寺。本尊聖観音菩薩。平安京造営の際の禁苑。放生池の中島に善女龍王を祀る。「日本紀略」は延暦19年（800）桓武天皇の行幸を記す。当時二条・三条大路間の南北四町、大宮・壬生大路間の東西二町を占めた。自然景観を生かし、中国の禁苑にならって造営した苑内には、乾臨殿や左右の楼閣、釣殿などを建立。桓武天皇以後。平城・嵯峨・淳和など歴代皇帝が頻繁に行幸遊宴した。貞観年間（859-77）に祈雨の霊場となったが、中世以後は荒廃し、慶長7年（1602）に始まる二条城造営で苑域の大半を失った。同12年筑紫の僧快雅が再興して寺となる。現在境内一円は国の史跡。例年5月1日から4日までの大祭に神泉苑大念仏狂言を催す。³⁷⁾

ムクノキ

中京D18

[区民の誇りの木]

豊富な湧水と自然の池沼を利用して造営された神泉苑は、平安京の禁苑。神泉苑は「御池」ともいい、現在の御池通の名称の由来となりました。造営当初、その面積は南北四町、東西二町に及びました。このムクノキは、押小路通に面する北門脇にあります。境内一円は、国の史跡に指定されています。

三条大宮通付近の寺社の集積

来迎寺

中京区神泉苑町通姉小路下ル瓦師町にある西山浄土宗の寺。紫雲山と号す。本尊弥陀如来。寛永7年（1630）詮空が油小路六角（現中京区越後突抜町）に創建。来迎庵と号した。慶安年間（1648-52）現在地へ移転。天明の大火で焼失し、嘉永年間（1848-54）本堂・観音堂などを再建。観音堂に祀る十一面観音像は熊谷直実の念持仏と伝える。³⁸⁾

妙泉寺

中京区三条通大宮西入上瓦町にある浄土宗の寺。本尊阿弥陀如来。天正10年（1582）道泉（織田信長の家臣）の妻妙泉が開創。開山は天誉。天明の大火に類焼し、文化年間（1804-18）界誉が再建。墓地に浮世絵師西川祐信や四条派の画家駒井源琦の墓がある。³⁹⁾

三寶寺

中京区三條通大宮西入上瓦町にある浄土宗の寺。本尊阿弥陀如来。天正10年（1582）道泉（織田信長の家臣）の妻妙泉が開創。開山は天誉。天明の大火に類焼し、文化年間（1804-18）界誉が再建。墓地に浮世絵師西川祐信や四条派の画家駒井源琦の墓がある。³⁹⁾

光明院

中京区三條通大宮西入上瓦町にある浄土宗の寺。本尊阿弥陀如来。天正10年（1582）道泉（織田信長の家臣）の妻妙泉が開創。開山は天誉。天明の大火に類焼し、文化年間（1804-18）界誉が再建。墓地に浮世絵師西川祐信や四条派の画家駒井源琦の墓がある。³⁹⁾

8

二条城周辺の歴史的資産(2)

■ 聚楽第

豊臣秀吉が天正14年（1586）大内裏旧跡の内野に構築した城郭。翌15年に完成。同年10月1日に開かれた北野大茶湯は、聚楽第落成記念の意味を持つ。秀吉はこの聚楽第を中核として、京都の町の改造、再編に着手、永年のミヤコの都市景観も大きく変貌した。聚楽第は、北は元誓願寺通、東は堀川通、南は下立売通り、西は千本通が外郭。内殻は幅20間、深さ3間、全長1000間に及ぶ堀に取り囲まれ、本丸を中心に、北丸、南二丸、西丸の曲輪を配して構成されていた。⁴⁰⁾

■ 平安京跡

葛野の盆地に営まれ、現在の京都の母胎となった古代最後の帝都。桓武天皇によって造都が推進され、延暦13年（794）10月辛酉（22日）に長岡宮から遷都した。翌11月の詔で新京を平安京と命名、あわせて国名の山背も山城と改めた。造都工事はその後も継続されたが、延暦24年の徳政相論で停止と決定、これが古代の造都事業の終わりともなった。京域は東西約4.5キロメートル、南北約5.3キロメートル、中央を朱雀大路（ほぼ現在の千本通）が南北に走り、北方の大内裏（宮城）に通じた。朱雀大路の東側を左京、西側を右京と呼ぶ。⁴¹⁾

■ 景観上重要な建築物、庭園等

北岡邸

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物]



▼59、▼37

（指定理由）

・様々な時代の小～中規模の町家が残る榎木町通に位置する明治中期の町家としての外観意匠をよく残しており、地域の標準的な間口を持つ町家として指標性を持ち、榎木町通の景観の形成に重要な建物である。

・洛中の町地における明治中期の町家であり、京町家の暮らしの伝統を歴史的意匠により継承する重要な建造物であり、ハレとケのまち京都の歴史的風致を形成している。

寺田邸

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物]



▼89、▼79

（指定理由）

・西陣の東端に位置する大正末期の町家で、外観意匠を良く残しており、小川通にいくつか残る町家とともに、通りの景観の形成に重要な建物である。

・呉服商としての歴史と、暮らしの場である町家の伝統を、歴史的意匠により現代に継承する、重要な建造物であり、ものづくり・商い・もてなしのまち京都及び暮らしに息づくハレとケのまち京都の歴史的風致を形成している。

布屋

[歴史的風致形成建造物]



▼50

（指定理由）

・商家の居宅として建築された、暮らしの場としての町家の伝統を、歴史的意匠により現代に継承し、さらにその文化を民宿という形で伝える重要な建造物であり、暮らしに息づくハレとケのまち京都の歴史的風致を形成している。

山中油店 米蔵他

[歴史的風致形成建造物]



▼81

明治期から大正期に建てられた町家群と蔵である。老舗の油店所有で、店舗、ギャラリー、簡易宿泊所等として活用されている。

筈井邸

[歴史的風致形成建造物、京都を彩る建物や庭園]



▼109 ■373

日本を代表する絵師、海北友松の子孫である所有者が文化芸術に関わる商いを営む町家で、明治後期の町家の伝統を歴史的意匠により現代に継承する。

（認定理由(京都を彩る建物や庭園)

安土桃山時代の絵師 海北友松(かいほうゆうしょう)とその嫡子である海北友雪(かいほうゆうせつ)ゆかりの町家。江戸時代から明治時代まで、京都の禁裏で御用を務める絵師の家として存続した。現在の町家は明治時代に建てられた。

二条城周辺のその他の歴史的資産

小川家住宅(二条陣屋) [国指定重要文化財(主屋等)]



重文 ※

中京区大宮通御池下ルにある小川家の住宅。重要文化財。二条城の南方に位置。小川家は米為替商や生薬商を営み、駕輿丁役をつとめる御用町人で、住宅は町家風だが、二条城や町奉行所で公事に関わる大名などが宿舎としたため陣屋と称する。寛文年間（1661-73）の建築と伝え、大正期に改造された個所も少なくないが、二階建の客室部は天明8年（1788）の大火以後の再建様態をそのままのこす。書院造の格式をもち、お能の間が隣接する大広間を中心に、1・2階に大小20ほどの部屋を配す。いずれも数寄屋造の贅をつくし、茶の湯もたのしめる。陣屋の特徴は防犯・防火に対する配慮で、外を漆喰壁の塗籠にし、軒先には濡れ簀を掛けるための釘を打つ。大広間を天井裏から見下ろす武者を隠し、釣り梯子、落とし階段など、要人の宿舎らしい構造をもつ。

岩崎家 [京都を彩る建物や庭園]

明治初期建築の伝統的な木造住宅。厨子2階建てで、出格子、虫籠窓が意匠を彩り、加敷造の軒裏からも歴史を感じる。庭は「花の庭」で四季折々の花が楽しめる。



89



二条通に面して5間強の間口を持つ、平入り形式の大型京町家である。厨子2階西側に虫籠窓が残り、切子が2本入るやや太めの1階出格子は重厚感を与えており、2階大屋根は軒が深く取られている。2間弱の間口を持つ通り庭には、吹き抜けに梁組みが見られ、入口に対面する竈の位置も特徴的である。床、平書院、違い棚等のある主座敷も、本格的な作りとなっている。四季折々の花が彩る庭には、主木のクロマツが存在感を発揮し、白川石で作られている灯籠や手水鉢等が配置されている。アルミ格子を木製に復元することで、まち並みの維持・向上に寄与しており、京町家の落ち着いた佇まいを今に伝えている。

旧本田商店(魏飯夷堂) [京都を彩る建物や庭園]

明治20年頃（1887）の建築で、元は醤油醸造を営む店であったが、数年前に中華料理店として再生された。内部も当時の町家の面影が残されている。



287



[市指定名勝]



堀内家長生庵 庭園
市指定名勝

樹木

ヒマラヤスギ： [区民の誇りの木]
NHK京都放送局 上京E10

ヒマラヤ地方の原産で、明治期に渡来。手入れがゆきとどいています。



ヒマラヤスギ：二条公園 [区民の誇りの木]
上京E12

公園内の樹木ですが、自然樹形に近い姿をした大木です。



ヒマラヤスギ： [区民の誇りの木]
元待賢小学校 上京E14

小学校のシンボルとして、正門の近くに植えられたもの。



ソメイヨシノ：城巽中学校 [区民の誇りの木]
中京C02

中学校の校門にあり、春には可憐な花を咲かせ、新入生を迎えます。



ケヤキ：中京中学校 [区民の誇りの木]
NHK京都放送局 306

校庭の南側、押小路通に面した一角にあり、通りからもよく見えます。



シダレヤナギ：二条公園 [区民の誇りの木]
上京E11

源頼政がぬえ退治の際にやじりを洗った「ぬえ池」の中央にあります。



ケヤキ：二条公園 上京E13 [区民の誇りの木]

昭和初期につくられた二条公園は、近代公園のさきがけ的存在。幼児が遊ぶ空間と、幅広い年齢層が多目的に利用できる空間とを区切っているのが特徴で、境界には、ケヤキなどの樹木が並木状に植えられました。



ケヤキ：夷川公園 中京C01 [区民の誇りの木]

夷川公園は夷川通に面した細長い公園で、道路沿いにはケヤキが列植されています。町中の貴重な緑の空間であるとともに、量感のあるケヤキ並木が緑陰をつくり、秋の紅葉も楽しめます。



クスノキ：朱雀高校 [区民の誇りの木]
中京D15

緑豊かな二条城の西側、美福通に面してクスノキが列をなしています。



ケヤキ： [区民の誇りの木]
三条大宮公園 309

平成10年に再整備されましたが、ケヤキは保存され、公園のシンボルとなっています。



(資料)

- 1) 京都市 編. 史料 京都の歴史第9巻 中京区. 平凡社、1985、p.254
- 2) 同上、p.255
- 3) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社、1984、p.718
- 4) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻 上京区. 平凡社、1980、p.363
- 5) 京都市 編. 史料 京都の歴史第9巻 中京区. 平凡社、1985、p.478
- 6) 同上、p.283
- 7) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館、1994、p.71
- 8) 同上、p.63
- 9) 同上、p.69
- 10) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻 上京区. 平凡社、1980、p.363
- 11) 京都市 編. 史料 京都の歴史第9巻 中京区. 平凡社、1985、p.255
- 12) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社、1984、p.718
- 13) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館、1994、p.71
- 14) 京都市 編. 史料 京都の歴史第9巻 中京区. 平凡社、1985、p.283
- 15) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館、1994、p.63
- 16) 京都市 編. 史料 京都の歴史第9巻 中京区. 平凡社、1985、p.478
- 17) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館、1994、p.69
- 18) 京都市 編. 史料 京都の歴史第9巻 中京区. 平凡社、1985、p.254
- 19) 同上、p.255
- 20) 同上、p.478
- 21) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻 上京区. 平凡社、1980、p.363
- 22) 同上、p.282
- 23) 同上、p.232
- 24) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館、1994、p.69
- 25) 同上、p.63
- 26) 同上、p.71
- 27) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻 上京区. 平凡社、1980、p.363
- 28) 同上、p.283
- 29) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館、1994、p.69
- 30) 京都市 編. 史料 京都の歴史第9巻 中京区. 平凡社、1985、p.479
- 31) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻 上京区. 平凡社、1980、p.363
- 32) 同上、p.283
- 33) 同上、p.363
- 34) 同上、p.283
- 35) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会、1998、p.148
- 36) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社、1984、p.522
- 37) 同上、p.968
- 38) 同上、p.895
- 39) 同上、p.489
- 40) 同上、p.812